

施策	12	未来を見据えた地域産業の魅力・強み・人材の強化				政策	1	多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり		
施策主管課	産業振興課		課長名	北澤俊規	内線	3510	政策担当部長名	産業経済部長 高田 修		
施策関係課名	産業振興課、工業課、農業課、林務課、観光課、商業・市街地活性化課、管理課									
重点施策	関連計画	地域経済活性化プログラム、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想、飯田市農業振興地域整備計画、飯田市酪農・肉用牛生産近代化計画、名勝天龍峡保存管理計画、名勝天龍峡整備計画、飯田市工業用地選定方針、飯田市森林整備計画、飯伊地域林業将来ビジョン								

1 施策の目的

目的	対象	事業者、従業員
	意図	出荷額・付加価値額を高める取り組みを強化する

2 現状把握

(1)対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	見込み 28年度
工業統計による事業所数 飯田下伊那	所	542	526	558	519	503 未確定	未確定	530
農家戸数(5年に1回公表)	戸	5,349	5,021	-	-	-	-	4,800
森林組合の作業員数	人	197	201	200	202	201	194	220
経済センサス基礎調査及び活動調査による卸売業・小売業の事業所数 飯田下伊那(5年に1回公表)	所	2,433	-	-	2,174	-	-	2,000
成果指標 成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
既存事業者の出荷額(工業) 飯田下伊那	億円	3,080	3,583	3,308	3,560	3,659 未確定	未確定	4,386
農協組織等の販売額(農業) 飯田下伊那	億円	188.0	197.5	187.5	194.6	178.1	186.9	200.0
素材生産額(林業) 飯田下伊那	億円	2.7 3.4	2.8	3.2	3.4 3.4	3.3 未確定	未確定	4.0
既存事業者の消費額(観光) 飯田下伊那	億円	113	102	103	98	102 未確定	未確定	129
飯田商工会議所各支部の事業数	件	96	92	85	85	102	111	90

(2)成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
行政	市(国・県) 事業者の活動を支援する	支援事業数 (本施策の事務事業数)	(34)	45	42	37	55
		講座数(産大、工業課資料)	39	46	31	36	40
		講座への参加者数(産大延受講者数、工業課資料)	1,135	1,147	922	1,535	1,200
		観光客に対する情報提供数(市内5ヶ所案内所)	71,750	70,763	62,333	80,257	78,600
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項				
市民等	事業者(企業・農林業者等)	技術力・マーケティング力を高める 魅力、強み、人材を強化する					
	経済団体(観光公社、飯田観光協会、商工会議所、農協、森林組合等)	事業者の活動を支援する					
		・製造品出荷額等 ・講座、研究会等への参加数					
		・事業者に対する情報提供数 ・講座の開催回数 ・参加者数					

3 平成26年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価 (取組みの状況評価)

計画どおり取り組めた
おおむね計画どおり
あまり取り組めなかった
達成できなかった

(2) 施策全体の評価 (外部要因も含めた総合的な評価)

進んだ
ある程度進んだ
あまり進まなかった
進まなかった

4 平成26年度取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

・出荷額・付加価値額を高める取組みを強化する意図で、未来を見据えて既存の地域産業の魅力・強み・人材の強化を、各産業で課題を把握する中で業界と協働で積極的に進めてきた。飯田産業技術大学やものづくり高度人材育成事業でのレベルアップを図るための新たな講座・コースの開設、「銀座NAGANO」、品川エリアでの首都圏学生に対する農産物を中心とした観光プロモーション・PR活動などの地域産業の魅力発信など、若い世代に対する働きかけにより、施策全体では、ある程度進んだと評価する。

【事務事業群テーマ別の評価】

< 工業人材育成・技術向上、受注の支援、工業施策の推進 >

・長年地元で貢献された技能技術者を褒賞すると共に、飯田高等職業訓練校で働きながら技能を習得する勤労者の職業訓練を支援した。
・企業のニーズを把握するとともに域外の大学や支援機関と連携し、飯田産業技術大学やものづくり高度人材育成事業を実施し、働きながら学べる環境を整備することができた。飯田産業技術大学の技術講座では、飯田技術専門校の汎用機械を有効活用し外部講師による実践的な研修を実施した。また、信州大学による「特別の課程1年コース」を開講した。ものづくり人材育成事業では、修士課程の研究の成果発表会を開催することにより、企業が抱える課題を解決することができた。講座により参加者の固定化や人数にばらつきがあるため、講座内容について再検討することが課題である。
・次世代を担う産業人材育成では、飯田OIDE長姫高校と連携した「ホビーフェスタ」を開催するとともに、「子ども科学教室」や「お仕事キッズタウン」を地域内連携により継続実施し、ものづくりの魅力に触れる体験型講座等を開講することができた。さらに地元高校と産業界の連携強化に向けた取組みが必要である。
・ビジネスネットワーク支援・受注開拓では、オーガナイザー2名により、ネスクイダ会員企業の受注営業活動をサポートし受注額が増加した。また、複数の開発案件をサポートし、新たな製品や技術の開発の支援にも取り組むことができた。会員による主体的な取組みになるような支援をすることが課題である。

< 農業関係団体の支援、農家・農業者の支援、ブランド化の推進 >

・各地区農業振興会議に対しては、地区担当職員を配置するとともに、農業振興センターの助成により集落営農等の地域活動を支援している。また、新しい農業を目指す地域の団体、若手農業者等の取組や活動に対して支援した。高齢化、担い手不足等、取り巻く環境は非常に厳しいが、地域営農の取組や若手農業者への支援を通じて、引き続き元気な農業・農村づくりに取り組むことが重要である。
・市田柿については新しい需要創出を視野に、国産ドライフルーツとして捉えワイン等にあわせる活用セミナーなど、信州首都圏総合活動拠点「銀座NAGANO」を利用したプロモーション・PR活動を展開した。重要な地域ブランドとして、引き続き、消費者層拡大による需要の増や産地としての基盤整備を進める必要がある。
・愛知大学と連携し、「飯田の食文化」の特徴の1つである「焼肉」をテーマにしたマーケティング活動を行い、今後の取組の方向性等に関する学生の提言を受けた。地域内外に素晴らしい「飯田の食文化」をPRし、飯田の魅力の1つとして更に発信していくことが必要である。
・市田柿、りんご等の果樹をはじめ、農産物の産地としての生産基盤の強化を引き続き実施した。

< 林業関係団体の支援、森林の整備管理、地域産材利用の促進 >

・飯田市新庁舎及び野底山森林公園管理棟において地域材の利活用を図り、公共施設における先導的役割を果たすことができた。
・飯田市産材利用による木造住宅の建築(8件)やリフォーム(3件)を行ったユーザーに対して補助金を交付し循環型経済に寄与したものの、住宅の価格等に課題があり、大幅な伸びにつながっていない。

< 観光関係団体の支援、観光地のPR、観光施設の維持管理 >

・首都圏に向けた飯田の知名度向上のため、リニア中央新幹線の起点である品川エリアにおいて観光を軸に農業など産業に関するPR活動による情報発信に取り組む拠点を進めた。
・リニア時代を見据えた首都圏へのプロモーション活動としては、地方都市をターゲットにした新たなプロモーション事業の展開を図っていた(株)南東京ケーブルテレビとの業務提携が実現したことで、品川エリアを中心とした首都圏への継続的な情報発信媒体としての関係性を築くことができた。
・首都圏在住の大学生との協働体制が確立されつつあり、首都圏の青年層をターゲットにした飯田の情報発信の仕組みづくりに取り組んでいる。
・今後の課題としては、この事業に対する飯田市民への啓蒙と活動に参加・協力してもらえる仕組みづくりに取り組んでいく必要がある。

< 経済団体等の支援 >

・飯田商工会議所が、当地域の商工業振興や産業経済の発展のために実施した地域づくり、地域活性化事業などに対して支援を行った。また、消費増税による消費の落ち込み対策として、消費喚起を呼び起こす取り組みをさらに進める必要がある。
・商栄会や商業者の団体等が行う地域商業の活性化のための事業に対して支援を行った。また、安心して来訪できる商店街環境づくりのための防犯カメラ設置、商業灯の整備等に協力した。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

< 工業人材育成・技術向上、受注の支援、工業施策の推進 >

- ・若い技能技術者を、地元で育てていけるように支援をしていく。
- ・飯田産業技術大学は、受講者数にばらつきがあるため、講座内容を再検討する必要がある。参加者へ実施するアンケートのみならず、講座内容や開催時間等について企業ニーズを把握しながら事業運営に反映していきたい。
- ・ものづくり高度人材育成では、多分野における企業ニーズの把握に努める一方、中核となる産業の育成ために次世代産業を中心とする技術等の高度化について中長期的に推進する方針を継続していく。
- ・ビジネスネットワーク支援・受注開拓では、受注営業活動を継続するとともに、さらにネスクイダ会員による主体的な取り組みになるように自立化へ向けた検討を進めていく。
- ・次世代を担う産業人材育成では、小学生対象の体験講座のほか、地元高校と産業界との連携強化により、課題研究に向けたインターシップやものづくり体験等、今後の中高生対象の人材育成についても研究していく。

< 農業関係団体の支援、農家・農業者の支援、ブランド化の推進 >

- ・引き続き、農業振興会議を中心にして、各地区の元気な農業農村づくりを支援していく。平成27年度から毎月、職員の全体会議を設け意見交換し、地区担当職員相互の情報を共有するとともに、地域支援の強化を図る。
- ・市田柿については、若年層を含む消費者層の拡大など需要創出を目指したプロモーション活動を引き続き推進し、ブランド力向上に努めていく。
- ・特長ある「飯田の食肉文化」を地域内外への情報発信を強化し、消費拡大を推進していく。

< 林業関係団体の支援、森林の整備管理、地域産材利用の促進 >

- ・森林を活用した持続可能なまちづくりを実現するため、地域内発型のビジネスモデルを構築し、林業の6次産業化が図られるよう関係者等によるアクションプログラムづくりに着手する。
- ・飯田の木で家を建てるプロジェクトの推進や積極的な公共施設への地域材利用など、地域内で地域産材利用が促進される環境づくりを進める。

< 観光関係団体の支援、観光地のPR、観光施設の維持管理 >

- ・産業経済部の「飯田のファンづくりプロジェクト」を中心に、リニア推進課、広報情報課及び南信州広域連合等が連携する共創の場を設けてブランド力の向上に取り組む中で、信州首都圏総合活動拠点「銀座NAGANO」を継続的に活用した飯田の知名度を上げるキャンペーン活動を進めていく。また、南信州サポーターとの協働を図り、首都圏に住む若者への情報発信や人材交流イベントを定期的に関催し、ファンづくりを推進する。
- ・飯田の3大観光エリアである「まちなか」、「天龍峡」、「遠山郷」を中心とした観光スポットの磨き上げや更なる資源の発掘を進めるとともに、インターネットやSNS等をフルに活用し、消費者のニーズを掴んだ観光情報の発信により効果的な誘客宣伝活動に取り組む。

< 経済団体等の支援 >

- ・引き続き、社会経済の状況を踏まえながら、地域商業の活性化などのために、飯田商工会議所や商栄会、事業者の団体が行う事業等に対して支援する。
- ・地域の消費を喚起するために、飯田商工会議所が飯田市において実施するプレミアム付商品券事業に対して支援を行う。

6 平成26年度事務事業 施策系統図

目標 施策1-2

対象
事業者、従業員

意図
出荷額・付加価値額を高める
取り組みを強化する

成果指標

既存事業者の
出荷額(工業)

農協組織等の
販売額(農業)

素材生産額
(林業)

既存事業者の
消費額(観光)

飯田商工会議所各支
所の事業所数(商業)

